

てびねり

九月号

平成21年9月1日発行

株式会社ゆしま陶助

門外不出のツタンカーメン

「トリノ・エジプト展」

開催 東京都美術館
会期 8月1日～10月4日
会場 上野公園 東京都美術館



東京都美術館入口の大看板 (8月27日撮影)

トリノ市はイタリア北西部に位置する人口90万のイタリア第4の都市です。かつてはイタリアの首都が置かれていて政治や文化の中心地でもありました。そのトリノに世界に誇る「エジプト博物館」があります。

今回はその博物館の3万3千点の中から選りすぐりの120点が展示されています。圧巻はやはり門外不出のツタンカーメン像でしょうか。大型彫像、ミイラ、彩色木棺、パピルス文書、ステラ(石碑)など圧巻の内容です。



「エジプト展」入り口(8月27日撮影)

エジプトの古代の発掘物は、トリノ博物館、パリのイヴル美術館、ロンドン大英博物館、アメリカメトロポリタン美術館、カイロエジプト博物館に分散して収められています。トリノエジプト博物館は質、量ともに優れた博物館として知られています。8月20日に来場者が10万人を突破しました。記 佐藤

◆今月の制作風景

中岡公子さん
絵付けが終わった酒器に釉薬を掛けています。(裏面に完成品が掲載されています)



金子裕子さん
グラタン鉢をどの色にするか選択中です。色のサンプルが結構多いので迷いますね。



小畑明子さん
釉薬はすぐ沈殿してしまうのでよくかき混ぜてください。



征矢野麻衣さん
オブジェの最終仕上げの削りをしていきますが、カメラに気が付かないほど集中しています。



小野寺修さん
ロクロで作った六角の深鉢の形を整えています。プロの料理人として、常に盛り付けを考えて作っているようです。



野口華栄さん
八角の盛鉢が出来上がりました。



親子陶芸ご紹介

上原由美子さん
高野あやかさん(姪)



石井孝子さん
江澤梨音さん(姪)



新井藤華さん
新井エマちゃん



親子陶芸(続き)

勝知恵美さん
勝さやかさん
勝大輝君



初級コースご紹介

蔡鉉さん(右)
坂井隆志さん(左)
(8月1日入会)
蔡さんは台湾ご出身です。



私が勧める美味しい店

洋食 黒船亭

推薦者 廣川真弓さん



ゆしま陶芸倶楽部から中央通りを上野駅方面に歩いて3〜4分の所にマクドナルドの店があり、そのビルの4階にあるのが「洋食黒船亭」です。(自社ビル) 下町のしにせの洋食屋さんとして、いつも賑わっていますが、かつて、ジョンレノン・オノヨーコ夫妻が日本に来ると必ず立ち寄って食事をした店だそうです。私達が伺った時も混んでいましたが、予約をして行きましたので座れました。いただいたピーフシチューもコロッケもボリュームがあり大変美味しかったです。私が皆さんにお勧めしたい一押しのおいしいお店です。(廣川)

洋食 黒船亭

場所：台東区上野2-13

133キウビル4階

電話：03-3833-1617



写真は黒船亭HPから

黒船亭で食事をする
ジョンレノン・オノヨーコ夫妻
定休日・・・年中無休
予約してお出かけください。

今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんにお願ひしています。

□井口誠子さん 「急須」



急須本体に油滴天目を、ふたには鉄赤釉。持ち手が大きくしっかりした急須です。

□平石規代さん 「変り型お重」



外側は油滴天目。中は白マットに白萩釉。中に入れる小分けの小鉢も現在製作中です。和洋どちらでも盛れる素敵なお重が出来上がりました。

□小畑明子さん 「カップ」



全体に化粧をして、線彫りで柄を入れ、その上に織部釉を掛け、全体に透明釉を掛け完成させました。

□岡部厚子さん 「トルコ青板皿」



大きな使い勝手の良さそうな板皿です。表面は石やヘラを使って凹凸を出し、トルコ青で仕上げました。

□佐々木志保子さん 「取り皿」



ボール紙で型を作り一枚づつ表情を付けたユニークなお皿です。伊羅保の色も良く出ました。

□中岡公子さん 「酒器揃い」



中村東洗先生の波ちどりの写しですが、大変上手に出来ました。旧呉須に透明釉でやさしい焼き上がりになりました。呑み過ぎにご注意。

□中村雅志さん 「湯呑」



ロクロで作った湯呑です。黄瀬戸の上に織部釉を掛け深みを出しました。

□木村治さん 「花器」



30センチ以上ある花器です。紅志野をつすく塗り、半分は焼めました。

□奥田智美さん 「菊型取り皿」



菊の形を丹念に丁寧に彫りました。ご本人にとっても満足度の高い作品ではないでしょうか。辰砂の酸化焼成もびつたりでした。

□小林和彦さん 「カップ」



それぞれ持ち手の違うユニークなカップ。白マットに白萩釉を掛け、持ち手は黒マット。小林さんの感性の高いカップです。

□柿沼ひろみさん 「中鉢」



内側は白マット。外側は撥水剤で黒マットを色抜きしたデザインの凝った中鉢です。

□小野芳子さん 「飯碗」



右から黄瀬戸、伊羅保、鉄赤ビードロを還元焼成した、釉変りの飯碗です。

□宇都宮裕さん 「四方皿」



手頃な大きさの四方皿です。ルリ伊羅保を掛け筆デルリを塗りました。色のバランスがとても良い作品です。

□片柳拓子さん 「小皿揃い」



白土で作った小皿に弁柄で鉄絵を描いて伊羅保釉掛けた組小皿です。

□中原玲子さん 「フリーカップ」



紙テープをちぎって貼り、辰砂釉を掛けて、撥水剤を塗りその後紙テープをはがし白マット釉を掛け仕上げました。

見た事・聞いた事・読んだ事

地震は天が人間に下す警告か？

このところ震度3〜5の地震が多発していて、何かそろそろ関東大震災級の大地震が発生するのではないかと心配している人が多いのではないだろうか。地震が発生するたびに、専門家らしき人が出て来て自信なさそうに解説をしているのを聞いて、なおさら不安が広がる人も多いと思います。

地震は太古の昔から恐れられていたのに、人間が月に出かける時代になっても未だに地面が激しく揺れる地震にはお手上げなのですから残念な話です。

中国の孔子が生きていた時代は紀元前ですが、その時代は大地震や洪水、干ばつなどの異常現象があると、政治が正しいあり方を失なっている際に天が人間に下す警告だ」とされたそうです。孔子が編纂した「春秋」や「詩経」に書かれているそうですが、異変は万物を構成する「陰陽五行」の不調和によるとされ、時の為政者たちはそうした異変に天のいかなる警告が込められているかを真剣に考えて恐れたといわれています。



関東大震災都心部の黒煙

中国で紀元前70年夏に、死者6千人も出た大地震が発生した時に、時の帝がこれは「天地の戒め」と認め、「自分の落ち度を正してくれ」と広く臣下に呼びかけたと言われています。この時代の為政者は、天の警告に応じて自然の不調和を回復する責任があったのです。

地震も台風も現在は世界でも日本でも、原因がはっきり判っているのですが、為政者（政治家）の責任にはなりません。勝手な開発が災害を大きくしているのは事実ですから、その意味では天災は「天の警告」と素朴に考えるのも良いのかも知れません。写真：関東大震災写真集より 記 佐藤 日経夕刊掲載 京都博物館長興膳宏コラム参照